

ローバースカウトプログラム
セルフエグザミネーション実施の手引き



(一社) 日本ボーイスカウト静岡県連盟女性・ユース活躍委員会

はじめに

日本連盟プログラム委員会から新たに『ローバースカウトハンドブック』2024が発行されました。その中では1995年版には明記されたものの、2020年版には記載のなかった「セルフエグザミネーション」が再び明記され、プログラムとして示されることとなりました。

「セルフエグザミネーション」は、「ちかい」を立てる（再認する）前に、各ローバースカウトが行うもので、今までの自分をふりかえり、内省(自省)するという行為を指します。

現行ハンドブックでは、P 6～8にかけて概要が説明されていますが、実践したことのあるスカウトが少なく、隊の中で継承されていないのが現状です。

本資料は、ローバースカウト及びローバースカウト隊指導者(アドバイザー)向けに、1995年版のハンドブックの内容を参考にして、セルフエグザミネーションにおいて考えるべき項目を整理したものです。また、イメージしやすいように実際の事例も掲載していますので、ローバーリング始動の一助となることと存じます。

表紙のローバー認識章は、このセルフエグザミネーションを実施し、「ちかい」を再認した者が着用できるものです。(決して、需品販売されているから誰もが制服に着用できるものではありません。)

ローバースカウトの効果的な成長と、社会に認められる本当の意味での『奉仕』ができるように、ローバースカウトハンドブック 2024 を補完するものとして、本資料を活用していただけると幸甚です。

なお、本資料は、「静岡ローバース会議」に引継ぎ、今後の実践評価や報告等を蓄積し、更新していくことを申し添えます。



目 次

1. セルフイグザミネーション(SELF-EXAMINATION)とヴィジル(VIGIL)について
2. セルフイグザミネーションの留意点
 - ①ねらい
 - ②場所
 - ③内容(項目例)
3. セルフイグザミネーションの日程例
4. 実践例と感想

1. セルフイグザミネーション(SELF-EXAMINATION)とヴィジル(VIGIL) (*1) について

セルフイグザミネーションもヴィジルも基本的には同じですが、ともに自己を見つめ、今後どういう生き方をしようかと自問することです。(自省、内省という表現を用います)

*1 ヴィジル：「vigil」は、ラテン語の「vigilia」から派生した英語の単語で、一般的には、「夜通しの見守り」または「祈り」を指します。特定の目的や意図を持って、通常の睡眠時間を犠牲にして行われる行為を指すことが多く、例えば、病人の看病や、特定の宗教行事、あるいは社会的な抗議行動などで使われます。スカウティングにおいては、ローバースカウトが夜を徹して内省する行為を指します。なお、ヴィジルという表記を避けた理由は、セルフエグザミネーションに比べ、キリスト教色が強いためと推測します。

2. セルフイグザミネーションの留意点

セルフイグザミネーションの実施に際しては以下の点に留意が必要となります。

①ねらいを明確にする

なぜ、ローバースカウトになる前に、「自己を見つめ、今後どういう生き方をしようかと自問する」のでしょうか。それはベーデンパウウェル（以下B-Pと言う）が「自分のカヌーは自分で漕げ」と言ったように、成人として今までの自分のスカウティングを顧みて、今後の指針を考え抜くことがこの年代のスカウトに求められるからと言えます。(教育規程7-30～32参照)

～セルフエグザミネーションがねらうこと～

- ・自分は人生において何をしようとするのか考えることで、今後の指針とする。
- ・成人として「ちかい」の意味を十分に理解したか、そして叙任(*2)されるのに十分な準備が整ったかを考え、ローバーリング始動の動機とする。
- ・自分の過ごしかたを振り返り、将来の可能性を考え、神への奉仕を無言のうちに行い、仲間に尽くすことを確認する。

*2 叙任：B-Pがローバースカウト部門のシンボルとして中世ヨーロッパの騎士（道）を用いたことから、ローバースカウトへ上進することを叙任と表現していました。

②効果的な実施場所の選定

他人にさまたげられない静かな所

（キャンプ場、集会場の個室、教会、寺社、誰もいない森、その他一人になれる所で本人の希望するところ）

③内容と各項目の例

○自分自身への問い合わせ

ものみな成長するごとく、時は、刻一刻と迅速にすぎ去る。いうならば、一生は短く、たちまちにして終わる。

（内省の項目例）

- ・私は、自分の生命を、最善に、そして有効に使っているだろうか？
- ・私は、何ら、ためになることをしないで、時間を無駄に過ごしてないだろうか？
- ・私は、人々に対して、まちがったことをしていないだろうか？
- ・私は、他の人々の力になろうとしないで、自分のためだけを考えて行動していないだろうか？
- ・私は、日々、だれかを傷つけてはいないだろうか？ それを、償うことをしただろうか？
- ・私は、これまでに、だれかに助けられたことはないか？ 私が助けてあげた人が1人でもあったらだろうか？

○奉仕について

奉仕は、閑時にだけするものではない。奉仕は生き方の態度であって、いかなる時も、奉仕の機会をつかむよう常時、待ち構えていなければならない。

（内省の項目例）

- ・私は、単なる興味本位でローバー部門に加入しようとしてはいないか？
- ・私は、本気で自己を奉仕のために犠牲にするという覚悟をしているか？
- ・私は、奉仕ということをどういう意味に考えているか？
- ・私は、自分の計画や実行において、自分のことよりも他人のことを、より多く思っているだろうか？
- ・私は、どういう種類の奉仕にいちばん適しているだろうか？

○自己実現について

われわれの奉仕が成功するかしないかは、われわれの人格いかに左右されることが大きい。他の人々に良い影響を与えるよう、そのために、自分自身を鍛錬せねばならない。

(自省の項目例)

- ・私は過去に身につけた悪い習慣をすてようと思うか？
- ・私の性格上、何が自分の弱点なのか？
- ・私は絶対的に恥を知り、名誉を重んじ、誠実であって、信頼に価するだろうか？
- ・私は、神（仏）と国と家族、そして上司、目下の者たち、およびスカウト、友人、そして自分自身にも忠誠だろうか？
- ・私は明朗だろうか、他の人々に対して快活で親切だろうか？
- ・私は清潔な生活をし、清潔な談話をしているか、どうか？
- ・物事が順調にゆかず意に反する場合、私は勇気をもってよくそれに耐えて意思を貫徹するかどうか？
- ・私は他人の説得によって自分の意志を曲げるか、それとも自分の意思をもちつづけるか？
- ・私は、賭けごと、飲酒一誘惑に打ち勝つだけの強い意志をもっているか？
- ・私がもし、そのような誘惑に弱いならば、それを改め、うちすてることができるだろうか？

3. セルフイグザミネーションの日程例

時 刻	内 容	備 考
21:00	<p>キャンプであれば、サイトを就寝できる状態に整理を完了しておく</p> <p>【導入】 <u>各々が内省する項目を整理し、全員に発意する</u> ≪内省項目の選択（以下例）≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身が信仰する教義等に沿って毎日を過ごしているか ・「ちかい」と「おきて」を実践をしているか。十分点と不十分な点を整理する ・奉仕とはなにか ・自分に今できる奉仕はなにか ・今後実践すべき奉仕は <p>【儀礼（スカウトカウンセラーサービス）】 信仰奨励章取得の手引きを参照し、スカウトの信仰する教宗派の方法に則って行う。</p> <p><u>各自個人テントへ移動</u></p>	<p>項目を記入しておく</p> <p>信仰奨励章取得の手引き</p>
22:00	<p>【実施】 各自個人テントにて内省をはじめる</p>	
6:00	<p>【ふりかえり】 <u>各々が実施して感じたことや決意したことなどを全員に発意する</u></p> <p>【儀礼（スカウトカウンセラーサービス）】 信仰奨励章取得の手引きを参照し、スカウトの信仰する教宗派の方法に則って行う。</p>	<p>信仰奨励章取得の手引き</p>

4. 実践例と感想

【効果的な実施場所の選定】



《自然の中で行う利点》
静かに自分と向き合うことができる

自然から学ぶものが多いと感じられる

【実施前の心構え】



《各自の内省項目の確認》

ふりかえるべき内容を事前に整理しておくことで、時間を効果的に使うことができる。

(写真はローバームート 2024 の様子。
通常はこのような大規模ではなく隊の数名で行う。)

【実施】



各々のテントに入り、静かに事前に定めた内省項目に沿って自己をふりかえる。



記録用に点灯しているが、実際は消灯して行う。

本来、夜を徹して行うものであったことから分かるように、安易に結論を急ぐことはせず、様々な視点から時間をかけて考え抜く行為を推奨する。

【翌日に行うべきこと】



一晩考えることができたことに対し感謝する。



チームで行う場合は内省をふりかえり発表しあう（決意表明）。

個人であれば記録に残す。

ローバースカウトの感想コメント

今回、セルフエグザミネーションを行ったことで、ボーイスカウトに入隊をした際にたてた「ちかい」と、スカウトの日常生活のものさしである「おきて」の意味を再確認することができ、改めて「ちかい」と「おきて」がこれまでの人生の指針にとってどのような影響を与えてきたのかを振り返る良い機会であった。

また、自省を通じて自身の内面に潜む弱さに気づけたと同時に、これまで続けてきたスカウト活動が自身の「奉仕の精神」を育み、日常生活の中で実際にその精神を発揮できている場面があるなど自信を持つこともできた。

ローバースカウトプログラム
セルフエグザミネーションの実施について
令和7年1月 作成
（一社）日本ボーイスカウト静岡県連盟
女性・ユース活躍委員会